

ワイルドライフ

北海道大学獣医学研究科生態学教室・教室誌

—Wild な人々による 2008 年度—



目次

2008 年度メンバー紹介	・・・P2
生態学教室の再スタート2年目	
－2008 年度を振り返って－ 坪田敏男	・・・P3
教室員の随想	・・・P5
研究業績 2008	・・・P15
名簿	・・・P21
別添	

2008年度メンバー

教授	坪田敏男
助教	下鶴倫人
D4	中川恵美子
D4	柳川洋二郎
D3	日名耕司
D3	飯渕るり子
D3	加味根あかり
D2	山中淳史
V6	別府雅彦
V6	宮沢千鶴
V5	藤本泰裕
V5	奥山みなみ
V5	吉本拓郎
研究生	太子夕佳
研究生	今村毅
技術補佐員	西澤次訓
技術補助員	坪田あゆみ
事務補助員	須川なおこ
日本野生動物医学会事務局	西みゆき

生態学教室の再スタート2年目ー2008年度を振り返ってー

坪田 敏 男

2007年度に再スタートを切った生態学教室の運営を任されて2年目が終了しました。1年目よりはアクティビティを高められるだろうと思っていたのですが、正直言って多くの面で困難にぶちあたった2年目となりました。北海道大学のもつ伝統や格式に圧倒されつつ、自らの無能さを嘆く日々が続きました。それでも何とか1年間を全うすることができたのは教室員の協力の賜ですし、後半には文部科学省グローバルCOEプログラム「人獣共通感染症国際共同教育研究拠点の創成」(喜田宏拠点リーダー)の採択など、明るい材料ももたらされました。本教室では、このプログラムの中でこれから4年間“野生動物生態と感染症研究”というチャンジングな研究に挑むことになります。

2年目の特筆すべき話題は、何と言っても新しい教員が増えたことでしょう。4月に東京大学大学院農学生命科学研究科(獣医動物行動学研究室)より下鶴倫人助教を迎え入れました。大学院時代は、スナネズミにおける社会性の獲得様式に関する研究に携わり、その研究成果により昨年3月に東京大学より博士の学位を取得されました。本教室に着任した後は、新たにクマの冬眠行動や鋤鼻器・皮脂腺の形態学的研究に着手し、学生の卒論および博士論文の指導を丁寧に行ってくれました。プライベートでは、本年3月末にかねてよりお付き合いされていた大学時代の同輩とご結婚されました。今年度はさらに活躍してくれるものと確信しています。

大学院生では、柳川洋二郎が「エゾシカ(*Cervus nippon yezoensis*)の受胎と妊娠維持における繁殖生理学的特徴の解明(英文)」の研究により、無事に博士の学位を取得しました。この4月からは北海道職員として根室(別海)の家畜保健衛生所に勤務しています(結婚との二重の喜びに浸っていることでしょう)。もう1人の4年生だった中川恵美子は、未だ学位取得には至っていませんが、4月からは人獣共通感染症リサーチセンターの特定専門職員として勤務する傍ら博士論文の執筆に励んでいます。3年生の3人(飯渕り子、加味根あかり、日名耕司)はそれぞれ博士論文研究の佳境を迎え、各々ツキノワグマとゼニガタアザラシからのデータ取りに精を出しました。残すところ1年となり、実験遂行と論文執筆の同時進行という最もたいへんな時期を迎えます。2年生の山中敦史は、1年間の岐阜大学での指導委託を終えて北大での研究をスタートさせ、本州から送られてくるツキノワグマの研究材料の処理に追われる日々を過ごしました。学部6年生の2人(別府雅彦、宮澤千鶴)は卒論研究を何とか完成させ、無事に卒業式を迎えることができました。今年、浪人中だった今村毅(平成19年度卒業)も含めて獣医師国家試験に合格し、メダシメダシ。5年生の3人(藤本泰裕、奥山みなみ、吉本拓郎)は、各々ゴマフアザラシの回遊行動の追跡、アライグマの繁殖生理学的研究、冬眠中のツキノワグマの行動解析といった研究に着手しました。その他、研究生の太子タ佳さんは、めでたく第1子を出産したこともあって来学の機会は減ってしまいましたが、引き続きシカの標本整理を行いました。11月からは、グローバルCOEプログラムの技術補助員として西澤訓次君が働き始めました。本来の野生動物生態と感染症研究に携わってもらった他、獣医学部標本室における野生動物関連の展示の充実とクマトランクキット(環境教育用教材)の開発にも関わってもらいました。彼は、かつて某札幌市内の公園でガイド役を務めていたこともあって環境教育のセンスは抜群です。さらに、12月から坪田あゆみさん(技術補佐員)も加わって標本室の展示とクマトランク

キットの開発を押し進めました。事務体制は引き続き須川なおさんと西みゆきさんの2人で、各々教室事務と学会事務（日本野生動物医学会）を担当していただきました。

以上のように、博士1名、学士2名が学位を取得できたこと、さらに教室全体としてこの1年で学術論文8編、学会発表9件、その他1編の発表と教室の研究活動を保てたことを喜びたいと思います。もちろん教室のアクティビティは論文の数や学位取得者の人数だけで決まるものではありませんが、税金を使ったコストパフォーマンスという点では、重要なメルクマールだと思いますので、今後も学術的な成果を発信するという社会貢献を第1義的に考え、より高いアクティビティを目指していきたいと思います。理想を掲げるなら教室員1人1人がやりがいのある仕事（研究）に携わり満足感をもってゴール（学位取得）を迎えることができれば教室としての役割は十分に果たし得たといえるでしょう。今年度もさらなる飛躍を誓いたいと思います。ご指導・ご協力をよろしくお願い致します。



繁殖学教室との合同お花見



2009. 3. 25 卒業式

研究業績2008

○研究活動

学位

博士（獣医学）

1) 中村幸子（岐阜大学大学院連合獣医学研究科）「Studies on the relationship between reproduction and maternal nutritional condition in the Japanese black bear (*Ursus thibetanus japonicus*)」(副査：坪田敏男)

2) 柳川洋二郎（北海道大学大学院獣医学研究科）「Changes of reproductive physiology during conception period and maintenance of pregnancy in Hokkaido sika deer (*Cervus nippon yesoensis*)」(主査：坪田敏男)

学士（獣医学）

1) 別府雅彦「ニホンツキノワグマ (*Ursus thibetanus japonicus*) における鋤鼻器の形態学的観察」(主査：坪田敏男)

2) 宮澤千鶴「エゾシカ (*Cervus nippon yesoensis*) における妊娠初期の血中 Pregnancy Associated Glycoproteins 濃度および末梢白血球中 Interferon-Stimulated Genes mRNA 発現の変化」(主査：坪田敏男)

原著論文

1) Kunisue, T., Takayanagi, N., Isobe, T., Takahashi, S., Nakatsu, S., Tsubota, T., Okumoto, K., Bushisue, S., Shindo, K. & Tanabe, S.: Regional trend and tissue distribution of brominated flame retardants and persistent organochlorines in raccoon dogs (*Nyctereutes procyonoides*) from Japan. *Environ. Sci. Technol.* 42: 685-691, 2008.

2) Nakamura, S., Okano, T., Yoshida, Y., Matsumoto, A., Murase, Y., Kato, H., Komatsu, T., Asano, M., Suzuki, M., Sugiyama, M. and Tsubota, T.: Use of bioelectrical impedance analysis to measure the fat mass of the Japanese black bear (*Ursus thibetanus japonicus*). *Jpn. J. Zoo Wildl. Med.* 13: 15-20, 2008.

3) Nakamura, S., Okano, T., Shibata, H., Saito, M., Komatsu, T., Asano, M., Sugiyama, M., Tsubota, T. & Suzuki, M.: Relationships among changes of serum leptin concentration, leptin mRNA expression in white adipose tissue (WAT), and WAT fat-cell size in female Japanese black bears (*Ursus thibetanus japonicus*). *Can. J. Zool.* 86: 1042-1049, 2008.

4) Kubo, M., Uni, S., Agatsuma, T., Nagataki, M., Panciera, R. J., Tsubota, T., Nakamura, S., Sakai, H., Masegi, T. & Yanai, T.: *Hepatozoon ursi* n. sp. (Apicomplexa: Hepatozoidae) in Japanese black bear (*Ursus thibetanus japonicus*). *Parasitology International* 57: 287-294, 2008.

5) Tsubota, T., Sato, M., Okano, T., Nakamura, S., Asano, M., Komatsu, T., Shibata, H. & Saito, M.: Annual changes in serum leptin concentrations in the adult female Japanese black bear (*Ursus*

thibetanus japonicus). J. Vet. Med. Sci. 70: 1399-1403, 2008.

6) Yanagawa, Y., Matsuura, Y., Suzuki, M., Katagiri, S. & Tsubota, T.: Immunohistochemical localization of the estrogen receptor alpha (ERα) and progesterone receptor (PR) in the uterus of sika deer (*Cervus nippon*) during pregnancy. Jpn. J. Vet. Res. 56: 139-149, 2008.

7) Atsushi, Y., Makoto, A., Masatsugu, S., Toshio, M., Michito, S., & Toshio, T.: Is there any relationship between the number of nuisance-killed Japanese black bears (*Ursus thibetanus japonicus*) and their nutritional condition?. Biology of Bear Intrusions: 48-51, 2009.

8) Yanagawa, Y., Matsuura, Y., Suzuki, M., Saga, S., Okuyama, H., Fukui, D., Bandou, G., Katagiri, S., Takahashi, Y., & Tsubota, T.: Fetal Age Estimation of Hokkaido Sika Deer (*Cervus nippon yesoensis*) Using Ultrasonography During Early Pregnancy. J Reprod Dev.(In press)

著書

なし

その他 (別添参照)

1) 坪田敏男：北海道大学環境保全センター報「種の絶滅危惧種と生物種保全」(NO.18 2009年1月)

学会発表

1) Ruriko, I., Junko, K., Sachiko, N., Makoto, A., Toshihiko, I. & Toshio, T.: Expressions of Steroidogenic Enzymes mRNA in the Testes of Japanese Black Bears (*Ursus thibetanus japonicus*) as Revealed by *in situ* Hybridization. Society for the Study of Reproduction 41st Annual Meeting: 297, 2008 (Hawaii)

2) 山中淳史, 浅野 玄, 鈴木正嗣, 溝口俊夫, 下鶴倫人, 坪田敏男: ニホンツキノワグマ (*Ursus thibetanus japonicus*) の有害捕獲数と捕獲個体の栄養状態に関連はあるのか?. 第 14 回日本野生動物医学会大会プログラム講演要旨集: 71, 2008 (神戸).

3) 早川大輔, 佐々木基樹, 鈴木正嗣, 伊吾田宏正, 坪田敏男, 梶 光一, 秦 寛, 近藤誠司, 松永延吉, 宮本明夫, 北村延夫: ニホンジカ (*Cervus Nippon*) の精子形成再開にともなう性ホルモン合成とそのレセプター発現の変化. 第 14 回日本野生動物医学会大会プログラム講演要旨集: 149, 2008 (神戸).

4) 早川大輔, 佐々木基樹, 鈴木正嗣, 伊吾田宏正, 坪田敏男, 梶 光一, 秦 寛, 近藤誠司, 宮本明夫, 北村延夫: ニホンジカ (*Cervus Nippon*) 精巣における性ステロイドホルモンの合成とそのレセプター発現の季節変化. 日本哺乳類学会 2008 年度大会プログラム講演要旨集: 152, 2008 (山口).

5) 柳川洋二郎, 松浦友紀子, 鈴木正嗣, 片桐成二, 高橋芳幸, 佐賀真一, 奥山英登, 福井大祐, 坂東元, 坪田敏男: 妊娠初期のエゾシカにおける胎齢推定方法の検討. 日本哺乳類学会 2008 年度大会プログラム講演要旨集: 159, 2008 (山口).

6) 日名耕司, 小林万里, 鈴木正嗣, 坪田敏男: 厚岸大黒島におけるゼニガタアザラシ (*Phoca vitulina stejnegeri*) の上陸行動の特徴. 日本哺乳類学会 2008 年度大会プログラム講演要旨集: 176, 2008 (山口).

7) 中川恵美子, 小林万里, 鈴木正嗣, 坪田敏男: 北海道沿岸に生息するゼニガタアザラシ (*Phoca vitulina stejnegeri*) とゴマフアザラシ (*Phoca largha*) の遺伝学的変異. 日本哺乳類学会 2008 年度大会プログ

ラム講演要旨集：176, 2008（山口）.

8) 飯渕るり子, 加味根あかり, 下鶴倫人, 坪田敏男: ニホンツキノワグマ (*Ursus thibetanus japonicus*) における冬眠中の血中代謝関連成分の変化. 第 146 回日本獣医学会学術集会講演要旨集: 269, 2008 (宮崎).

9) 加味根あかり, 飯渕るり子, 柴田治樹, 下鶴倫人, 坪田敏男: ニホンツキノワグマにおける血中グルコース動態とインスリン応答の季節変化. 第 146 回日本獣医学会学術集会講演要旨集: 269, 2008 (宮崎).

座長・講演・シンポジウム等

1) 坪田敏男: コーディネーターと座長: 第 3 回アジア野生動物医学会学術集会ワークショップ「アジアのクマ類の保全生態学および保全医学の融合・連携による保全プロセスとくにマレーグマを事例とした課題と展望」(2008 年 8 月 19 日、ボゴール、インドネシア)

2) 坪田敏男: 座長と発表: クマ類の出没メカニズムに関する国際ワークショップ (2008 年 11 月 21 日、京都)

○研究費

文部科学省・日本学術振興会等

1) 文部科学省グローバル COE プログラム「人獣共通感染症国際共同教育研究拠点の形成」(坪田敏男「野生動物生態と感染症研究」: 事業推進担当者) 2,500 千円

受託研究

1) 森林総合研究所より環境省公害防止等試験研究費「ツキノワグマの出没メカニズムの解明と出没予測システムの開発」(坪田敏男: 研究分担者) 1,418 千円

共同研究

1) 茨城県自然博物館「野生ツキノワグマの行動生態および生理に関する実験」(坪田敏男: 研究代表者) 100 千円

2) 北海道森林整備公社「アライグマの個体群動態に関する研究」(坪田敏男: 研究代表者) 350 千円

3) 北海道環境科学研究センター「ヒグマの体脂肪に関する研究」(坪田敏男: 研究代表者) 50 千円

4) NPO 法人ピッキオ「野生動物とヒトとの軋轢の軽減に関する研究」(坪田敏男: 研究代表者) 60 千円

その他

1) 北海道大学平成 20 年度総長室重点配分経費によるプロジェクト研究 (坪田敏男: 研究代表者) 3,000 千円

2) 北海道大学平成 20 年度総長室重点配分経費によるプロジェクト研究 (下鶴倫人: 研究代表者) 1,000 千円

○教育・大学運営活動

講義・実習・演習

- 1) 坪田敏男：全学共通教育「脊椎動物の生態と進化」(10回担当)
- 2) 坪田敏男：全学共通教育「地球未来学」(1回担当)
- 3) 坪田敏男：「獣医学概論」(1回担当)
- 4) 坪田敏男・下鶴倫人：「基礎獣医学演習Ⅰ」(5回担当)
- 5) 坪田敏男・下鶴倫人：「基礎獣医学演習Ⅱ」(4回担当)
- 6) 坪田敏男・下鶴倫人：大学院「環境獣医科学特論」(10時間担当)

委員会委員

- 1) 坪田敏男：学生委員会
- 2) 坪田敏男：情報基盤センター協議会
- 3) 坪田敏男：獣医学部教務委員会
- 4) 坪田敏男：獣医学部標本施設運営委員会委員長

○社会活動

兼業

- 1) 坪田敏男：北海道獣医師会より野生動物部会委員(部会長)
- 2) 坪田敏男：社団法人エゾシカ協会よりエゾシカ肉推奨検討委員
- 3) 坪田敏男：(財)畜産生物科学安全研究所より難分解性・高濃縮性化学物質に係る鳥類毒性試験検討調査に関する検討委員会委員
- 4) 財団法人秋山記念生命科学振興財団選考委員

学会・研究会等

- 1) 坪田敏男：日本獣医学会・評議員
- 2) 坪田敏男：日本繁殖生物学会・評議員・広報委員・学会誌編集委員
- 3) 坪田敏男：日本野生動物医学会・事務局長・学会誌編集委員
- 4) 坪田敏男：野生生物保護学会・学会誌編集委員
- 5) 坪田敏男：日本哺乳類学会・クマ保護管理作業部会委員
- 6) 坪田敏男：ヒトと動物の関係学会・評議員
- 7) 坪田敏男：日本応用動物行動学会・評議員
- 8) 坪田敏男：日本クマネットワーク・クマ基金委員会委員長・地球環境基金事業推進担当者

○新聞、雑誌、マスコミ報道(別添参照)

- 1) **JVM**：ニュース 日本野生動物医学会大会が行われる (Vol.61 No.10 2008)
- 2) **STV**：「どさんこワイド」コメント 12月

3) 福井新聞：「空腹？クマ冬眠せず」（2009年2月19日）

○その他（別添参照）

1) 加味根あかり：北海道新聞・夕刊（平成20年6月25日）

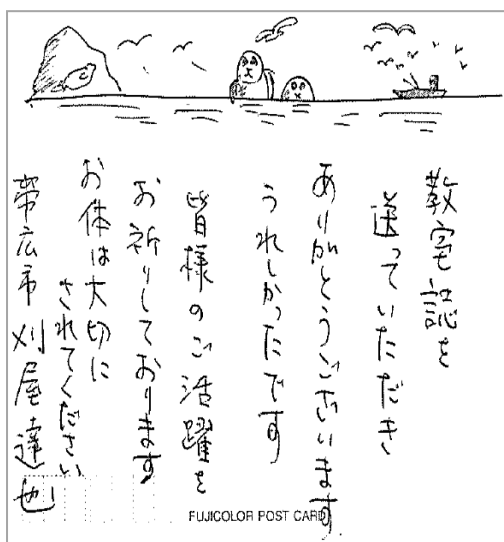
2) 加味根あかり：北海道新聞（平成20年7月15日）

3) 加味根あかり：えるむ「世界大会で活躍。ハングライダーとセパタクロー」

(NO.129 平成20年10月号)

4) 加味根あかり：えるむ「平成20年北大エルム賞決定」（NO.131 平成21年4月号）

卒業生からの便り



千葉（旧姓 南山）依里 さん
ご結婚おめでとうございます



別添

新聞・雑誌・マスコミ報道
その他

別添